

# 矢作川流域圏懇談会通信

R6 市民・海合同部会編 vol.1



発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆市民部会・海部会合同WGを開催しました！

市民部会・海部会合同WGでは、市民部会・海部会の第15期の活動目標や第5回公開講座の内容を報告しました。また、愛知県農業水産局の方から豊かな海の回復に向けた取組を紹介していただきました。最後に市民部会・海部会の合同イベントについて意見交換しました。



日時：令和7年2月13日（木）15:00～17:00  
会議場所：西尾市 中央ふれあいセンター 3F 視聴覚室  
参加者：18名（内オンライン参加1名） \*事務局含む

## ◆主な会議内容

### 1. 第15期の活動目標について

第15期の最初のWGとなるため市民部会・海部会それぞれの活動目標を報告しました。



### 2. 第5回公開講座の振り返りについて

令和6年12月17日に開催した第5回公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の内容を情報共有しました。



### 3. 豊かな海の回復に向けた取組について

愛知県農業水産局の方より「水質保全」と「豊かな海」の両立に向けた取組について紹介していただきました。

現在の伊勢湾・三河湾は栄養塩が不足していることに起因して、海苔の色落ちや、アサリ等の餌となるプランクトン不足が顕在化しています。改善するために「社会実験」として2箇所の浄化センターで放流水中の窒素とリンの濃度を増加させる取組をしています。結果、海苔の色落ちは軽減されましたが、アサリについては、個体数は増加しましたが肥満度は低下しました。これは栄養塩が不十分であることが理由であると考えられます。

「社会実験」の結果を踏まえて「栄養塩増加運転の継続（2027年度まで）」、「栄養塩増加運転を恒常的に実施するための枠組み検討（類型見直しや総量規制基準の緩和の検討）」、「栄養塩を漁業生産につなげるための取組（水産生物の産卵や育成の場となる干潟・浅場造成を推進）」が必要です。また、環境省が発表した類型等見直しについて一部改訂されます。利用目的の適応性から「水浴」を削り、柔軟に水域タイプの指定及び適宜適切な見直しを行う等が記載される予定です。



### 4. 市民部会・海部会の合同イベントについて

今期に予定している市民部会・海部会の合同イベントについて話し合いました。主な意見は「水産資源を食べながら海の課題を知っていただく」、「夏休みの時期であれば学生等を巻き込みつつ開催する」、「SNSを活用してイベントを周知する必要がある」です。また、懇談会が主催となるのではなく、他イベントへの参加等も含めて検討していく必要がある等の意見がありました。



## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### ●豊かな海の回復に向けた取組について

- 豊かな海の回復に向けた取組の中でどのような課題があるのか。（鈴木輝）
  - ▶ 漁業だけのために環境基準があるわけではない等意見がある。（柴田）
  - ▶ 環境基準を変更することで何かあった際にはどうするのかという問題がある。何か起きているのは現在であり、規制が過度になった10年間の内に、経営が悪化した組合が多数いる。仮に規制を緩めることで赤潮等が発生したとしても漁業者の生活を犠牲にしてよいとは思わない。今後は適応的管理によって調査・モニタリングによって規制を見直していく方針になりつつある。（鈴木輝）
- 赤潮や貧酸素の一番の原因は沿岸域の埋め立てである。干潟や藻場等の生物の生息場を再生することが重要である。（鈴木輝）
- 赤潮の中には有害赤潮と珪藻赤潮が存在し、水産に与える影響が違う。有害赤潮は貝毒等の原因であるため有害である。珪藻赤潮は動物プランクトンが食べに来て、それを小魚が狙い、さらに小魚を大きな魚が追って来るため歓迎されていると漁協で聞いたことがある。2つの違いをしっかりと説明する必要がある。（井上）
- 矢作川流域圏には山・平地があり、降った雨が浸透して湧水があるということも重要である。現在は湾等に入った窒素、リン、ケイ素等が表流水由来か湧水からかが分かっている。（井上）
- 海水浴、潮干狩りや海産物を食べる等の海とのふれあいから海と市民が親しめるようにすることが重要である。「きれいな海」、「豊かな海」、「親しめる海」の3つを両立していきたい。（柴田）

### ●冬水田んぼについて

- 現在の田んぼは冬に水を貯留しないため、シギやチドリといった野鳥等が生息しなくなっている。（高橋）
  - ▶ 冬の田んぼに水を貯めることで雑草対策になり、不耕起でメタンの排出抑制になる。（井上）
  - ▶ 1年間の内、2/3は水が無いため、生物多様性が低下している。
- 矢作川の土砂に関しては中流は河道が狭いことや砂洲が固定されていることからかなり厳しい状況となっている。そのためダムから海まで土砂を運び、海を再生することは良いと考える。ただし、持続可能とは思えない。もう一度土砂の循環について考える必要がある。人口減少社会と合わせてグリーンインフラ等を活用して空いた土地をどのような資源として循環社会に取り入れるか。（松沢）
- 将来の担い手となる学生等の若い世代に里山等の景色を伝えていく必要がある。（松沢）
- 今後はこういった議論をどのように流域市民に伝えていくかが重要と考える。（近藤）
  - ▶ シンポジウム等は限られた方が対象になる傾向がある、流域市民の方にも知っていただけるように広報してアピールしていきたい。（青木）

### ●市民部会・海部会の合同イベントについて

- SNS等を活用して発信することが有効と考える。（高橋）
  - ▶ 4月19日に循環フェスというイベントで”究極のおにぎり”と”しし汁”を販売する予定である。SNSを活用している若い世代が運営にも携わっているため、若い世代にも伝えるきっかけになると考える。流域市民が海の課題を知ったうえで支えあえるようになれば良いと考える。（鈴木建）
- カヌー等での、川下りのイベントを通して、生産者の意見を聞くことも良いと考える。（鈴木建）
- 三河湾100キロウォーキングというイベントのように歩きながらSNS等で情報発信し、様々な人を巻き込むのはどうか。（太田）
- 魚センター等で魚を食べていただき、海の状況を聞いていただき、船でクルージングするような企画も良いと考える。（青木）
- WGやFW等を通して知った情報を様々なイベントやネットワークで情報共有していくことが懇談会メンバーの重要な役割と考える。矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭のように企画されたイベントに参加していくことも一つの手と考える。（近藤）
- 今後、食に関する公開講座を市民部会で企画する予定である。（近藤）
- 答志島や佐久島は日本の海や農地、土地利用の縮図のような部分がある。答志島の場合は2010年頃までは耕作水田が多数存在した。2024年に行った際には一つも見かけなかった。このような問題を行政も含めて考えていく必要がある。（松沢）
- 例年通り、今年も10月に奈佐の浜海岸清掃を予定している。今年は懇談会と連携して実施したいと考えている。昨年は長野県の諏訪湖の団体と連携して実施した。（近藤）

## 今後の予定

■次回WG 日時：6月頃を予定

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野  
TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

